

F1マシンの長さや横幅を測る子どもたち。いずれも鈴鹿市御園町の県営鈴鹿スポーツガーデンで



あこがれのマシン 興奮



オリジナル卒業証書を掲げ、記念撮影する参加者やスタッフ

鈴鹿「F1の学校」

鈴鹿市の県営鈴鹿スポーツガーデン体育館で三十一日にあった小学生向けの「F1の学校」は子どもたちに大人気。児童二百二十人が展示用レーシングカーの長さや幅を計測したり、順番に乗せてもらったりし、貴重な経験に喜んでいった。

(酒井直樹)

乗車体験など児童ら満喫

学校は、F1日本グランプリ(GP)が十月に鈴鹿サーキットで再開されることから、川喜田さんは一つの市が、関係自治体の小学生に参加を呼び掛けることを強調し「熱戦

学校では、ジャーナリスト川喜田研さん(四七)が、「自動車のレースの最高峰」と呼ばれる理由を分かりやすく説明。「インデ

学校では、ジャーナリスト川喜田研さん(四七)が、「自動車のレースの最高峰」と呼ばれる理由を分かりやすく説明。「インデ

イーカーレースだと、最高時速三百五十キロが出る。F1マシンは三百キロだが、「走って」曲がって『止まる』という総合力が世界最高」と話し「国語、算数、理科、社会…すべてができるということ

学校は、F1日本グランプリ(GP)が十月に鈴鹿サーキットで再開されることから、川喜田さんは一つの市が、関係自治体の小学生に参加を呼び掛けることを強調し「熱戦

学校では、ジャーナリスト川喜田研さん(四七)が、「自動車のレースの最高峰」と呼ばれる理由を分かりやすく説明。「インデ

学校では、ジャーナリスト川喜田研さん(四七)が、「自動車のレースの最高峰」と呼ばれる理由を分かりやすく説明。「インデ

2009・2・1 中日新聞



通風

◇…自動車レースの最高峰フォーミュラワン（F1）

1) 日本グランプリが十月に再開される三重県鈴鹿市で三十一日、小学生に競技の面白さを知ってもらう「F1の学校」があった。

◇…約二百二十人は、トヨタの展示用マシンに一人ずつ乗せてもらい、写真、F1シヤーナリスト川喜田研さん(四)が「四秒あれ

◇…「すごいと思う気持ち」を燃料に、好きな道を目指して走ってほしい」と呼び掛けられた子どもたちから、将来のF1選手や技術者が出るかも。

2009・2・1 毎日新聞

雑記帳



◇F1の魅力を子供たちに知ってもらおうと鈴鹿サーキットのある三重県鈴鹿市は31日、同市の県営鈴鹿スポーツガーデンで「F1の学校」を開いた。地元の小学5、6年生ら約260人が参加した。写真。

◇エンジンやタイヤが普通の車とどう違うかなどの講義に加え、展示用F1マシンの試乗もあって児童たちは興奮しっぱなし。参加児童には「卒業証書」が渡された。

◇ホンダがF1から撤退するなど不況が影を落とすが、10月には3年ぶりにF1グランプリが同サーキットで開催される。子供たちに、サーキットを中心に発展するまちへの「発進」を担ってほしい。

【福泉亮】